

水無瀬

ワキ 高野の僧（為世）

子二人 姉と弟

シテ 子の亡母

地は 摂津

季は 秋

ワキ詞

「是は高野山より出でたる僧にて候。我いにしへは津の国水無瀬の里に。為世といはれし者にて候ふが。さる子細候ひて元結切り。かやうの姿と罷りなりて候。次第に故郷もなつかしう候ふ程に。唯今思ひ立ち水無瀬の里へと急ぎ候。是は、や故郷水無瀬の里に着きて候。此所に暫く休まばやと思ひ候。

子二人二声

「花散りし。嵐も寒き秋風に。もろき柞の森の露。消えても残る命かな。

姉

「是は津の国水無瀬の里に。為世の卿といはれし人の。二人の子にて候ふなり。

二人

「さても我父後の世の。為世は遁世し給ひて。母も我等も捨小舟の。水無瀬の川の小夜千鳥。共音に鳴きて過せしに。母さへ空しくなり給ひて。我等おとゞひ花水を。手向の為に立ち出づる。

歌

「かほどまで。便りなき身を我父の。く。捨て置

き給ふ思ひ子の。恋ひ悲しめるあはれさよ。人は
帰らで見る夢の。別れとゞまる物ならば。現に逢
はんよしもがな。く。

ワキ詞

「不思議やな是なる幼き者を見れば。古の某が子に
て候。さらぬ様にて過ぎ行かばやと思ひ候。

弟「いかに姉上。聖の御通り候ふ御留め候へ。

姉「実によく仰せ候ふ御留め候へ。

二人「いかに御聖聞し召せ。往来の利益の御為めならば。

我等が母の空しき跡。弔ひてたばせ給へなふ。

ワキ

「無慙やな父とも知らでおとゞひは。利益をなさん
と往来の。僧を供養し給ふぞや。さらば留まり申
すべし。

二人「嬉しや今日は母上の。空しき跡の其日なり。御経
読みてたび給へ。

ワキ

「それこそ易き御事なれと。落つる涙を押さへつゝ。
御経を読まんと志せば。

二人「我等が母の亡き跡を。弔ひ給ふ御聖を。

ワキ「父とも知らずで。

二人「今は又。

地「よそのあはれに言ひなして。く。さらば留まりて。跡を弔らひ申さん。

二人「嬉しの今の仰せやと。おとゞひ共に喜べば。

地「見れば昔に変わりはたると。庭の桂木窓の梅。主忘れぬしるしぞと。匂ひを留めて吹く風の。洩る月影

も冷ましや。見苦しけれど此方へと。御僧を請じ入れければ。

ワキ「千度百度親子ぞと。

地「名乗らばやとは思へども。輪廻の業の目を塞ぎ。

念仏申し撫子の。弔ふ法の結縁に。正覚ならせ給へや。く。

ワキ「南無幽霊成等正覚。

シテ「念仏衆生無量寿如来。

ワキ「一代教主釈迦牟尼法号。

シテ「来迎引撰。

地「あら有難や。

ワキ「更闌け夜静かに帳門開かざるに。影の如くに見え給ふは。此世には亡き古人の。姿顕はし給へるか。

シテ「恥かしや猶も輪廻に帰り来て。見え参らするは憚りなれども。親と名乗らで情なく。よそがましげにおはします。恨み申しに参りたり。

ワキ「尤それはさる事なれども。捨つる浮世の身を恥ぢて。親と名乗らぬばかりなり。

シテ「なふ包むも事による物をと。亡者は子供の手を取りて。

ワキ「草の枕の夜の宿。

シテ「夢に相逢ふ親と子の。

子二人「袂にすがれば。

ワキ「兎も角も。

地「争ひかねて捨人は。いとゞ心の迷ひ子に。親と名乗らんは。よその人目もいかならん。

シテ「羨ましや父も子も。

地「同じ浮世の身にあれば。逢瀬の便もあるぞかし。我は冥途に帰りなば。いつ又夢にも逢ふべき。

地「緑子は三界の。く。首かせに繋がれて。娑婆にも行かれず冥途にも。帰りがねて悲しやな。苦しみは受くれども。忘るゝ隙なきは。娑婆に残る妄

執。愛着恋慕の妨ぐる。心の鬼の身を責めて。烏羽玉の黒髪を手に繰りからまき。引つ提げ引きすゑ左右に引き分けて。立つも立たれず居るも居られぬ。因果の車の廻り来て。問へども何かは答ふべき。叫べども叶はず。

シテ「されどもかやうの弔ひに。

地「されどもかやうの弔ひに。今こそ親子に鸚鵡の袖を。振り切りがたき糸竹の。紫雲たなびき音楽聞

え。紫雲たなびき音楽聞えて。成仏するこそ有
難けれ。成仏するぞ有難き。

底本：国立国会図書館デジタルコレクション『謡曲評釈 第八輯』大和田建樹 著